

令和5年度 坂越中学校区小中連携教育 活動記録

1 令和5年度 小中連携教育研究部会具体的実践

- 小・中学校相互の授業研究を通して、子どもたちの実態の相互理解につとめる。
- 算数と数学の内容の系統性を把握し、指導の継続性を求めて、指導の改善を図ることにより、小・中学校9年間を見通した指導の相互理解につとめる。

2 坂越中学校区の活動報告

坂越小学校・高雄小学校

○実施日：令和6年2月5日（月） ○単 元：一次関数

○事後協議

- ・坂越小学校、高雄小学校ともに、児童にやる気があり、考えようとする姿がよく見られて良かった。中学校でもその姿勢を大切にしてほしい。
- ・石取りゲームの勝ち負けから、絶対勝つための法則を見つけようという導入で、考える必然性が生まれていた。
- ・楽しく行った活動をもとに、表を使って考えたり、規則性を式に表して考えたりと、数学につながっていったことで、楽しく学ぶことができた。児童達の中学校に対する意欲につながったように思う。
- ・文章題の意味を考えることの重要性や、視点を変えて考えることの大切さなど、中学校で必要となる力について例題を交えて楽しく学べて良かった。



3 まとめ

小学校で中学校の先生が授業をしたことで、児童の実態を把握する良い機会となった。また、児童は、授業内容を基に「中学校では自分から学ぶ姿勢や考える力が大切になる」など、数学を学習する上で大切な心構えを知ることができた。さらに、進学先の中学校の先生の授業を実際に受けたことで、今後の中学校生活への安心感にもつながったように思う。事後協議では、授業の内容についてだけではなく、中学校で感じる数学におけるつまづきや授業形態の工夫等について中学校と小学校の現状を知り、小学校で計算力や基本的な知識を身に付けることは不可欠であることを共有できた。中学生の実態や傾向から、算数を学習する上で強化すべき点を一緒に考えることができ、大変有意義な時間となった。

子どもの成長を小学校、中学校その先の進路まで見据えて支えていくことが大切である。今後も必要な情報を積極的に共有して、自ら学ぶ力を育成できるよう授業改善に努めていきたい。